



こんにちは

令和7年  
第4回定例会  
No.93

# 魚沼市議会です

守門岳の大雪庇

謹賀新年



荒沢岳の万年雪(10月)

峠のブナの新緑



おおひら  
大平の湧水(軟水)



光を求めるフキノトウ

## 魚沼市の宝シリーズ③

### 魚沼の自然を支える雪と水

魚沼の豪雪は雪解け水となり、地表を流れて沢・川を形成し、魚沼の大地を潤す。大地に染み込んだ水はブナをはじめとする樹木が保水し、ゆっくりと大地に染み込み、数年かけて湧水(軟水)として地表に潤いを与える。

生物の命をつなぎ、人々の生活を支える豊かな水は、魚沼の宝です。雪は天からの恵み。

【発行責任者】 議長 志田 貢

【広報広聴特別委員長】

横山 正樹

【副委員長】 磯部 竜太郎

【委員】 こめたらう・古田島 丞  
関 武雄・本田 篤

## Contents

- ・定例会・補正予算・議案賛否の状況 ..... 2~3
- ・反対・賛成討論 ..... 4
- ・一般質問 ..... 4~11
- ・聞かせて! あなたの声「Voice」 ..... 12
- ・中学生議会を開催しました ..... 13~15
- ・常任委員会報告 ..... 16~17
- ・行政視察報告 ..... 17~18
- ・議会報告会結果報告 ..... 19
- ・市民の声・議会TOPICS・あとがき ..... 20

表紙写真: 提供 横山 正樹





議長 志田 貢

# 新年の挨拶

市民の皆様、あけましておめでとうございます。希望に満ちた新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から、市政並びに市議会に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」になります。「午」はその字が示す通り、勢いよく駆け、目標に向かってひた走る躍動感にあふれた動物です。また、「丙」には、「明るい」、「火」といった意味があり、物事が成就し、表面化する年とされています。魚沼市議会もこの「午」の勢いと「丙」の輝きに乗り、

停滞を打破し、市民の皆様の幸福という明確な目標に向かって、力強く前進していく決意を新たにしております。現在、地方を取り巻く環境は極めて厳しく、本市においては「少子高齢化」が進む中でのコミュニティの維持や気候変動により異常気象への万全の備えが急務となっております。また、全国的に進む「DX化」の波は、本市の行政サービスや地域経済の在り方にも大きな変革を求めています。

私ども議会といたしましては、二元代表制の一翼を担う機関として、「走る午」のごとく、地域課題にスピード感をもって取り組み、市民生活の向上を最優先とした政策提言を行い、「丙の輝き」のもと、議論の透明性を高め、市民に開かれた議会運営を徹底し、執行部のチェック機能を強化してまいります。また、「魚沼市の宝」である豊かな自然、米を核とした農業、そして地域文化を守り育て、未来に繋ぐための基盤整備に注力してまいります。

市民の皆様の声を市政に反映させ、市民主役の住みよいまちづくりを目指し議員一同、心ひとつにして職責を全うする所存でございます。

結びに、本年が市民の皆様にとって、健康で心豊かな一年となりますとともに、魚沼市がさらなる発展を遂げる年となりますよう心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

## 第4回定例会報告

令和7年第4回定例会が12月1日から12月22日の22日間の会期で開催されました。議会初日に、専決処分（一般会計補正予算（第6号））、一般会計補正予算（第7号）を可決し、人権擁護委員候補者の推薦、固定資産評価審査委員会委員の選任について同意しました。

12月3日と4日には、15人の議員が一般質問を行いました。

最終日には、追加の議案も含め、各委員会付託の議案は、いずれも原案のとおり可決されました。また、請願2件と陳情1件が採択され意見書3件を可決しました。

## 第4回定例会補正予算

		補正前の額	補正額	計	主 　　な 　　内 　　容
専決処分の承認を求めることについて (専決第16号令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第6号))		362億6,000万円	260万円	362億6,260万円	＜歳入＞歳出事業費の追加に充てる財源として、財政調整基金繰入金の追加 ＜歳出＞弁護士委託料及び弁護士費用補助金の追加
令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第7号)		362億6,260万円	5億2,540万円	367億8,800万円	＜歳入＞四日町排水ポンプ場整備事業費の大規模雨水処理施設整備事業費補助金、農地集積集約化対策事業費補助金の追加 ＜歳出＞住民税非課税世帯に対する灯油購入費助成に伴う事業費補助金、障害児通所等給付事業における扶助費、歳入の農地集積集約化対策事業費補助金の確定に伴う事業費補助金の、昨冬の大雪の影響から今冬の除雪費用に不足が生じるため除雪委託料の追加
令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第8号)		367億8,800万円	10億80万円	377億8,880万円	国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源とした、プレミアム付商品券事業、中小企業等エネルギーコスト対策設備更新事業、省エネルギー家電等入替促進事業、農業用肥料等高騰対策支援事業、子ども1人当たり2万円給付の物価高対応子育て応援手当の実施に係る関連経費、アーバンベア捕獲緊急支援対策、人事異動及び新潟県人事委員会勧告による一般職員給与費等の調整及び会計年度任用職員の給与改定に伴うもの
令和7年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)		32億3,500万円	2,260万円	32億5,760万円	新潟県人事委員会勧告による一般職員給与と費等の調整、過年度交付金精算による償還金確定による追加など
令和7年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第2号)		50億3,310万円	270万円	50億3,580万円	人事異動及び人事院勧告による給与と費の調整、介護予防ケアマネジメント事業に係る負担金の追加など
令和7年度魚沼市病院事業会計補正予算(第2号)	収益的収入	11億1,600万円	50万円	11億1,650万円	給与と費に充当する企業会計費用分
	収益的支出	10億6,800万円	50万円	10億6,850万円	職員の給与改定に伴うもの
令和7年度魚沼市ガス事業会計補正予算(第1号)	収益的支出	17億700万円	▲250万円	17億450万円	職員の給与改定及び人事異動に伴うもの
令和7年度魚沼市水道事業会計補正予算(第1号)	収益的支出	8億4,000万円	▲10万円	8億3,990万円	
	資本的支出	8億6,300万円	100万円	8億6,400万円	
令和7年度魚沼市下水道事業会計補正予算(第1号)	収益的支出	22億3,000万円	170万円	22億3,170万円	
	資本的支出	15億6,300万円	400万円	15億6,700万円	

## 第4回定例会議案等

◎＝全会一致 ○＝賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×＝否決・不採択・不承認

議案番号等	付議事件	議決結果	議案番号等	付議事件	議決結果
予算	議案第93号 専決処分の承認を求めることについて(専決第16号 令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第6号))	◎	その他	議案第105号 市有財産の処分について(土地・小出島地内)	◎
	議案第94号 令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第7号)	◎		議案第106号 市有財産の処分について(土地・井口新田地内)	◎
	議案第121号 令和7年度魚沼市一般会計補正予算(第8号)	○		議案第107号 市有財産の処分について(土地・一日市地内)	◎
	議案第122号 令和7年度魚沼市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	◎		議案第108号 指定管理者の指定について(魚沼市特別養護老人ホームあぶるま苑)(公の施設の管理を行わせる指定管理者を指定するもの)※議案第119号まで同じ	◎
	議案第123号 令和7年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第2号)	◎		議案第109号 指定管理者の指定について(魚沼市湯之谷デイサービスセンター)	◎
	議案第124号 令和7年度魚沼市病院事業会計補正予算(第2号)	◎		議案第110号 指定管理者の指定について(魚沼市入広瀬デイサービスセンター)	◎
	議案第125号 令和7年度魚沼市ガス事業会計補正予算(第1号)	◎		議案第111号 指定管理者の指定について(魚沼市守門健康センター)	◎
	議案第126号 令和7年度魚沼市水道事業会計補正予算(第1号)	◎		議案第112号 指定管理者の指定について(入広瀬自然活用センター)	◎
条例	議案第127号 令和7年度魚沼市下水道事業会計補正予算(第1号)	◎		議案第113号 指定管理者の指定について(戸隠・深流・歴史公園)	◎
	議案第95号 魚沼市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について(緊急消防援助隊等活動又は災害応急作業に従事した職員へ手当を支給するための改正)	◎		議案第114号 指定管理者の指定について(上原コスモス園及び道光高原緑地公園)	◎
	議案第96号 魚沼市火災予防条例の一部改正について(林野火災の発生を予防するための改正)	◎		議案第115号 指定管理者の指定について(鏡ヶ池総合案内所、鏡ヶ池公園及び鷹待城址公園)	◎
	議案第97号 魚沼市税条例の一部改正について(地方税法等の改正)	◎		議案第116号 指定管理者の指定について(折立温泉運動広場及び折立トレーニングセンター)	◎
	議案第98号 魚沼市在宅介護サービスセンター条例の一部改正について(伊米ヶ崎デイサービスセンターの廃止に伴う改正)	◎		議案第117号 指定管理者の指定について(銀山平森林公園)	◎
	議案第99号 魚沼市都市公園条例の一部改正について(指定管理者が行える業務の追加及び公園内での行為に係る使用料の見直しに伴う改正)	◎		議案第118号 指定管理者の指定について(奥只見スロープカー)	◎
	議案第100号 魚沼市水道条例の一部改正について(魚沼市公営企業運営審議会の答申に基づく料金の改正)	○		議案第119号 指定管理者の指定について(越後ハープ香園入広瀬)	◎
	議案第128号 魚沼市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について(特別職の職員の期末手当の支給月数の改定に準じ、議員の期末手当の支給月数の改定)	○	人事	同意第3号 固定資産評価審査委員会委員の選任について佐梨 南雲 文夫氏(令和8年1月12日～令和11年1月11日)	◎
	議案第129号 魚沼市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について(新潟県の特別職の職員の給与改定に準じ、特別職の職員の期末手当の支給月数の改定)	○		同意第4号 固定資産評価審査委員会委員の選任について吉水 宮内 正氏(令和8年1月12日～令和11年1月11日)	◎
	議案第130号 魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について(新潟県人事委員会勧告に準拠して一般職の職員の給与改定等を行うための改正)	◎		同意第5号 固定資産評価審査委員会委員の選任について原 渡邊 隆夫氏(令和8年1月12日～令和11年1月11日)	◎
その他	議案第131号 魚沼市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について(新潟県人事委員会勧告に準拠して特定任期付職員の給与改定等を行うための改正)	◎	発議	発議第4号 クマ被害対策に向けた各種支援を求める意見書の提出について(クマ被害が多発し、地方自治体の人的、物的、財政的負担が増加している状況で、住民の安全安心な生活を確保するため、国において地方自治体の負担に対する支援措置を要望するもの)	◎
	議案第132号 魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について(一般職の職員の給与改定に伴い、一般職の職員の給料表を準用する会計年度任用職員の給料表の改定)	◎		発議第5号 免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について(免税軽油制度の廃止は、当市の基幹産業である農林水産業や観光産業等の経営に多大な負担を強いることとなり、地域経済の疲弊につながることから、制度の継続を要望するもの)	◎
	議案第101号 第三次魚沼市総合計画基本構想の策定について	◎		発議第6号 新潟水俣病全被害者の救済と問題解決に向けた取組を求める意見書の提出について(未救済被害者の救済に向けて新たな救済制度を確立し、阿賀野川流域住民の早急な健康被害調査の実施の向け被害者団体との協議を要望するもの)	◎
	議案第102号 市有財産の処分について(旧消防器具置場・上折立)(用途廃止した上折立地区の旧消防器具置場を地元自治会へ無償譲渡するもの)	◎	請願	発議第7号 私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書の提出について(私立高校生が学費の心配なく学びたいことができるとともに、専任教員の増員により一人ひとりの生徒に行き届いた教育を行うため、私学助成制度の拡充を要望するもの)	◎
陳情	議案第103号 市有財産の処分について(土地・大倉地内)(貸付中の大倉地内の土地を貸付相手へ売却するもの)	◎		請願第3号 免税軽油制度の継続を求める請願書	◎
	議案第104号 市有財産の処分について(土地・堀之内地内)(魚沼市財産処分実施要綱の規定に基づき予定価格の減額を行った普通財産の土地を一般競争入札による落札者へ売却するもの)※議案第107号まで同じ	◎	陳情	請願第4号 新潟水俣病全被害者の救済と問題解決に向けた取組に関する請願書	◎
				陳情第1号 「私立高校の学費負担軽減と専任教員増を促進するため、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書	◎

## 議案賛否の状況

賛否が分かれた上表の網かけの議案等について掲載 ○＝賛成 ●＝反対 △＝棄権 欠＝欠席 ー＝除斥 ※＝議長は議決に加わりません。

議案番号等	議決結果	合 計		れいわ志政会					しんせいクラブ					青 嵐 会					会派所属なし		志田 貢
		賛 成	反 対	古田島丞	横山正樹	星 直 樹	浅井宏昭	星野みゆき	磯部竜太郎	大桃俊彦	渡辺一美	関矢孝夫	高野甲子雄	佐藤卓摩	関 武雄	遠藤徳一	本田 篤	森島守人	こめたろう	大平恭児	
議案第100・121・128・129号	原案可決	15	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	●	※

※議案第93号・94号・120号・同意第3号～5号の採決の際、関矢孝夫議員は欠席



# 反対・賛成討論

議案第100号

「魚沼市水道条例の一部改正」

可決

## 反対討論

委員会質疑で、「赤字予算は組めない、独立採算であり、最小限の料金の引き上げを行った」とした。

しかし、住民が直接影響を受ける料金引き上げは、市民生活の実態を踏まえ慎重かつ丁寧に議論をするべきである。水道料金を据え置いたままでも、10年後の内部留保が増額となる計画を見直せば財源確保はできる。一般会計からの繰入れも、昨今、ふるさと納税が年々増額となっており、うまく活用すれば財源が捻出できる。また、審議会等の議論では、物価高騰で苦しんでいる市民生活のことは議論にならず、反対する意見はなかった。

今、すべてのモノとサービスの価格が上昇し、これまでにないような厳しい生活を市民は余儀なくされている。憲法第25条で示された生存権の規定から、水道事業が行われている。今こそ、水道料金は引き下げる

か、最低限据え置くことが求められている。まだ、議論は尽くされていない。

## 賛成討論

当市水道事業は、市民に安全で美味しい水の安定的な提供に努めると共に、経費節減を念頭に置き、利用者の負担軽減に努めてきた。その結果、近隣の事業者における料金の差異が生じ、より安価な設定で供給している。料金は、利用した対価だけでなく、今後の水道施設や環境整備に財産的な投資をして持続可能な事業を継承し、市民生活環境の安全、安心を担う責務の要素も含まれる。

昨今の社会的な経済環境変化から経費の拡大、施設の老朽化にともない、将来的に資金調達の準備、充実に図り基盤強化をすることは、独立採算制の観点から必要であり尊重しなければならぬ。水道事業は市民の生活に密着した事業である。料金改定は、慎重になるべきであるが、公共事業者として、生活費の負担軽減に配慮した改定であり、容認できる範囲内と考える。

水道法の三原則を遵守し、魚沼市公営企業運営審議会の答申に基づいた議案である。利用者の減少傾向による今後の事業基盤整備強化の観点から賛成する。

## 一般質問（通告順）



浅井 宏昭

## 農機バンクの導入について



農業機械の購入及び維持には大きなコストが伴う。特に、小規模経営体や新規若手就農者は、負担が非常に重いものとなっている。全国的に広がりを見せている中古農機の台帳登録システム、農機バンクを魚沼市に導入してはどうか。

**問** 当市の農業従事者の中で、農業機械の購入及び更新が大きな負担となっている人数など実情は把握しているか。

**答** 人数等の実情は、把握していない。負担が大きいという声は承知している。農業機械の購入及び更新に対する支援として、単独事業の農業用機械設備導入事業において、農業者の負担軽減を図っている。

**問** 農機バンクの導入について市としての見解はどうか。

**答** 農機具の有効活用を図り、必要とする市内の農業者への譲渡につながる制度として、高額な農機具を容易に入手することが難しい小規模農家や新規就農者に有効な取組である。

**問** 農機バンクの運営主体は、農協、地域の生産組織、市直営などの選択肢が考えられるが、どのような形態が理想的か。

**答** 民間事業者のノウハウを生かした事業展開や運営体制が理想である。

**問** 既存の「農業用機械設備導入事業」や「スマート農業機器導入事業」などの補助制度を、農機バンク制度とどう重ねて制度設計することで効果を最大化できるか、具体的な検討状況があるか。

**答** 農業用機械設備導入事業は、令和7年度から共同利用で機械を導入する場合に補助要件を追加した。小規模農家をはじめ多様な担い手に対し、補助申請が可能となり、中古農機の購入も対象としている。この共同利用は、農機シェアリングと親和性の高い取組が可能になると見込んでいる。スマート農業機器導入事業は、農作業の受託を目的とした事業であるが、農業用機械設備導入事業とあわせ、農機バンク制度との連動など先進事例を参考に今後の研究課題としたい。

## 一般質問 (通告順)



関矢 孝夫

## 小中学校の教育環境の在り方を問う



**問** 令和7年10月2日には小中学校の教育環境の在り方について、小中学校は10年後を目途に4校程度、中学校は15年後を目途に1校という提案がされた。具体的な方策として4点、付帯意見として3点の答申が示されたが、教育委員会としてどう解釈し、再編計画を策定するのか。

**答** 子どもたちの教育環境という視点だけでなく、地域の方々の思いが深く関わることを十分に配慮し、答申に沿った再編計画を策定して令和8年度に各地域に丁寧の説明していく。

## クマ被害対策について

**問** 市では3回の緊急銃猟を実施したが、緊急銃猟を行える捕獲者は何人で、その身分の保障はどうか。

**答** 3人で非常勤特別職となっている。

**問** 非常勤特別職の報酬はどうか。

**答** 年額報酬は5,000円で、実施隊が出動したときは、活動費として時間1,500円を支払っている。

**問** 出動するときの交通費と実弾

等の保障はどうか。

**答** 交通費・実弾とも個人負担でお願いしている。

**問** これだけ市街地にクマが出没し、市街地で銃を使用するので、金銭的・心身的負担が大きいと思う。身分保障を見直すべきだと思うがどうか。

**答** 今までと同じでは駄目だと思ふ。考えていきたい。

**問** 今後クマ被害を防ぐため、どのような対策を考えているか。

**答** 中長期的な対策として、里山の藪を刈り払うなど、集落と生息地の間に緩衝地帯を設け、見通しの良い環境をつくり出すことが重要と考える。

**問** AIカメラを緩衝帯に設置し、クマやイノシシが近づいたときに、野生動物が嫌う音を発生して追い払う事例があるが検討しないか。

**答** 嫌な音を発することによる効果はクマだけでなく、他の動物にもあるかを含めて検討したい。



関 武雄

## 鳥獣被害対策について



**問** 市内における鳥獣被害の動向の認識と課題は何か。

**答** 令和7年10月21日に県内初の緊急銃猟を実施し、11月24日に2例目を実施した。場面を想定した関係機関との打合せや、役割分担の調整を事前に済ませたことで人身や物損の被害はなく、現場の連携や判断に大きな支障はなかった。今後、全国の事例を参考に、様々な場面を想定し検証・改善する必要がある。

**問** クマ被害対策パッケージを受け積極的な取組を期待する。特に、ハンター育成と対策専門部署を設置し、対応すべきではないか。

**答** クマ被害対策パッケージは11月14日に閣議決定され、具体的な内容が示された。今後、国の予算措置等が決まり通達 cameたら、ご指摘の項目を踏まえた拡充や支援策を講じたい。専門部署設置は、今のところ考えていない。

次年度に向けた農政の基本的方針について

**問** 米生産主産地として、来期に向けた市独自の方針に変更はあるか。

**答** 魚沼市米需給調整独自支援は、加入率低下が進んでいるが、担い手への農地集積が進む中で、一定程度の加入面積は確保されている。こうした支援が担い手をはじめ農業者の所得向上に寄与している。市独自の支援メニューもあり、近隣市からも注目を集めている。一方で、同支援に係る加入率の低下は課題である。本市がコシヒカリの主産地として将来にわたり安定的な経営継続を図るためには、相互に支え合う体制の維持が不可欠である。関係機関・団体・農業者が一体となり加入促進に向けた機運醸成を図る必要がある。

**問** 生産環境改善に向けた区画整備事業の着手と完了に向けた予算獲得の動きを問う。

**答** ほ場整備事業は、事業費が多額で実施期間も長年にわたる。事業が順調に促進するよう、予算確保に向け国・県へ積極的に働きかける。

## 一般質問 (通告順)



佐藤 卓摩

森林環境税と森林環境  
譲与税について

地球温暖化の影響による温室効果ガス削減のため、平成31年度税制改正により創設された「森林環境税」「森林環境譲与税」について市に現況を問う。

## 問

森林環境譲与税の使途・現況について、クマに限らず動植物の生態系に影響を及ぼしている原因として里山の荒廃が挙げられる。薪や木炭の生産といった田舎暮らしの原点である森林整備は林業経営にも環境面でも新たな起爆剤となりうる素材があると思うが市の考えはどうか。

## 答

令和元年度から令和6年度までの譲与額は約9,500万円である。活用額は約8,500万円である。これまでに約90%の譲与税を活用している。譲与税の使途は、森林整備に関する施策、人材の育成・担い手の確保、木材利用の促進・普及啓発等の森林整備の促進に関する施策に充てることとされている。本市は、私有人工林などの森林整備に約3,

400万円、森林作業道開設の路網整備に約2,400万円、市産材製品の木材活用等に約2,700万円、担い手確保や普及啓発活動に約60万円を充て活用した。

## 問

森林環境譲与税の自治体間協定の可能性について、整備すべき森林が少ない都市部の自治体は、具体的な使途が決まらず、基金として積み立てるといった事例がある。都市部の自治体と森林を有する魚沼市が連携し、森林整備を行うことを都市部の自治体へアピールすべきではないか。

## 答

森林面積の少ない都市部の自治体では、譲与税を基金に積み増す例も見受けられる。自治体間協定により本市での森林整備や森林環境学習などに活用できる可能性はあると考える。本市と交流のある首都圏自治体の森林環境譲与税の活用状況や要望等を聞き、有効に活用できる内容を検討し今後も提案していく。



星野みゆき

## 有害鳥獣の有効利用について



有害鳥獣駆除は、非常に多くの経費と労力、そして危険を伴い行っている。有害鳥獣の捕獲数が年々増加し、捕獲した個体の処分負担を軽減するためにジビエ<sup>※1</sup>などの活用も有効と考える。自家消費されていないイノシシは、現在埋設されているが、地域資源として有効活用するため解体施設及び食肉加工施設の整備が必要と思われる。食肉として利活用することにより、地域の所得向上や積極的な捕獲による被害軽減が見込めると考える。

## 問

地域資源として有効活用及び捕獲者負担軽減のため、国、県の補助金を活用し解体施設や食肉加工施設の整備を検討できないか。

## 答

有害鳥獣捕獲後の処理は、捕獲者に一任され、近隣地域にも対応可能な施設がなく、処理に対し苦慮している状況は承知している。国の

制度として、鳥獣被害防止総合対策交付金の支援内容の一つに、食肉利用等施設整備が設けられているが、整備後も安定した運営が行える事業者でなければ担うことは難しい。鳥獣被害対策実施隊の負担軽減は、重要案件と考える。担い手確保のため対策を検討していく。

## 問

市町村の区域にかかわらず発生する野生鳥獣による農作物被害に対し、同様の課題を抱える市町村間、広域で連携して施設整備を考えられないか。

## 答

南魚沼市、魚沼市、十日町市、湯沢町、津南町で構成される三市二町、雪国観光圏等との会議で研究していきたい。

※1 ジビエ

狩猟によって捕獲された野生の鳥獣の食用肉。



## 一般質問 (通告順)

魚沼市の基幹産業である魚沼市産

中山間地域の田んぼを守る仕組みづくりについて

**答** 民間事業所が事業性や採算性などの経営判断に基づき実施されるべきである。

**問** 民間管理の集客施設におけるトイレの洋式化について、管理事業者に改修の要望を行うことはできないのか。

**答** 全て和式トイレ、または男女いずれかのトイレが和式のみは、34施設である。改修計画は、新設や大規模改修の際に、施設の特性や規模、利用実態によって整備を進める。

**問** 市の公共施設で、和式トイレのみの施設はあるのか、あるとすれば改修計画はあるか。

魚沼市を訪れる観光客の困りごとの一つに、和式トイレ使用の問題がある。特に、高齢者や子どもたちにとって和式トイレは、身体的に困難な面が多々ある。市内の和式トイレのみの施設の改修を考えているのか。



横山 正樹

## 市内の公共施設や集客施設のトイレ洋式化について問う



**答** 高齢化や離農による水路管理の人手不足で、農作業の維持管理に支障が生じ、地域農業を維持するうえで大きな課題である。中山間地域等直接支払交付金などを引き続き活用し、担い手等への負担軽減を支援する。

**問** 水路管理の現状と課題、水路管理対策はどうか。

**答** 需要の高い農業用機械設備の導入補助で、10月末時点で46件、総額4,489万円の申請があった。現場での有効性が高く評価されているが、手続の複雑さ、制度内容の周知不足もあり、改善に向け引き続き対応する。

**問** 農業未来創造事業34事業の活用状況とその評価はどうか。

コシヒカリを生産する、田んぼを守る仕組みづくりは重要な課題である。中山間地が多い魚沼市で、中山間地域の田んぼを持続化させるための施策を問う。

**問** 農業の水平戦略について、現代表版農工商連携はできているか。魚沼の大地に潜在する地域資源を研究し磨き上げ各地、各分野に水平展開されているか。これまでもブランド化に力を入れ取り組んでいる。さらなる成長をどう図るか。

**答** 市内には6次産業化に取り組む農業者が、通年営農の実現と収益の向上につなげ、6次産業化は有効な手段と考える。県の指導で、先進地事例などを検証し、農業者のさらなる経営安定と継続できるよう支援する。

**問** 農業における垂直戦略をどう検証しているか。6次産業化に当たるが生産から加工、販売まで異業種参入も含め「ヒト」や「モノ」が繋がり活性化しているか。検証作業の必要はないか。

委員会視察で「農業振興」の取組が自治体の各種課題の解決策を生み、人がつながり、挑戦者を育て「まち」の原動力となっている先進事例を学んだ。



遠藤 徳一

## 魚沼の魅力を「農」でつなぐ成長戦略について



**答** 商との連携（市の農産物などを加工販売する事業者への支援）、学との連携（東京農業大学から本市農産物を育む超軟水の研究、工との連携（有害鳥獣捕獲用大型檻の試験開発）などを進めている。今後も先進事例を参考に市内外の様々な事業者から知恵を借り、双方にとってメリットのある関係を構築し、成長していく取組の研究を進めていく。

**問** 魚沼市では農業振興をあわせ生態系を守る農業に取り組む団体もある。安心安全な付加価値農業への取組は可能か。

**答** 生態系を守る農業の実現に向け、有機作物の栽培や化学肥料・化学合成農薬の原則5割以上低減といった環境保全効果の高い営農活動を行う農業者への取組に国や県と環境保全型農業直接支払交付金として支援している。安全で安心できる食の提供は消費者から強く求められている。一定の要件を満たす有機栽培の米や野菜などは魚沼ブランド品として推奨することで、付加価値の高い農産物の創出を後押しし、地域ブランドの強化や販路拡大に寄与している。

一般質問 (通告順)



星 直樹

市職員の処遇、交互派遣について



職員を守るためのカスタマーハラスメント対策について

**問** 職員からの相談窓口や、問題が発生した際に迅速に対応できる内部体制はどの程度整備されているか。

**答** 魚沼市カスタマーハラスメント対応マニュアルを作成した。組織的に対応する必要がある、各部署での対応に苦慮している状況であれば、係長、課長等と対応する。カスタマーハラスメントの場合は、毅然と適切に対応することとしている。

**問** カスハラ指針の策定、相談窓口の明確化、市民向け注意喚起ポスターの掲示、研修の実施などの対応が進んでいるか。

**答** 対応マニュアルは、作成済みである。市民に対し、市報や市ホームページでマニュアルの作成を周知する。マニュアルの公表でカスタマーハラスメントの抑止も期待する。来年度、職員研修を計画している。

**問** 職員の安全確保やメンタルヘルスの観点から、カスハラ対策を体系的に検討し、魚沼市独自の指針を

策定すべきと考えるが、市としての見解はどうか。

**答** 今回作成したマニュアルをカスタマーハラスメント対応の基本ルールとしたい。

友好自治体等との職員交流・交互派遣の推進について

**問** 友好自治体との間で、職員の相互交流を実施することの必要性を、市としてどのように認識しているか。

**答** 友好自治体への派遣は、広い視野や見識を習得できるものと考えられる。友好自治体からは、本市で不足している土木・建築等の専門職の派遣で、新しい技術やノウハウを学べる機会と考える。

**問** 今後、友好自治体との職員相互派遣に関する具体的な検討や計画はあるか。

**答** 具体的な検討等はこれからである。友好自治体に対し人事交流をアプローチしていきたい。



高野 甲子雄

柏崎刈羽原発の再稼働には反対の意思表示を示すべきだ



**問** 柏崎刈羽原発は建設計画当初から地盤が悪く、「豆腐の上の原発」と言われてきた。2007年の中越沖地震ではマグニチュード6・8の地震であったが、原発敷地では地盤の隆起と陥没で大変な被害が起きた。3号機からは黒煙が上がったのである。道路は大渋滞となり、避難できないことも証明された。地震で一番の心配はプール内の使用済核燃料同士が触れれば核爆発となることである。魚沼市は柏崎刈羽原発から上稲倉地区の一部は30km以内であり、風向きは80%が西風である。事故が起これば逃げられないと思う。市長は柏崎刈羽原発の再稼働には反対の意思表示を示すべきと考えるがどうか。

介護人材の確保策について

**問** 魚沼市でも高齢化が進んでいる。一方介護人材の不足から介護施設の閉鎖の動きもある。介護業界の重労働、賃金水準の低さから人手不足の状況も深刻である。諸物価高騰もあり、益々人材不足が危惧される。介護職員の賃金不足からの開放が大切と考える。大幅な賃金改善を図るべきと考えるがどうか。

**答** 介護事業所では、介護報酬は介護保険制度により国が定めていることや、諸物価高騰の影響を受け、その改善に向け厳しい状況となっている。介護職員の賃金水準の低さや人材不足は、重要な課題である。国の介護報酬の改定の動きを見つつ、本市として介護事業所の人材不足解消に向け、引き続き介護人材確保支援事業により事業所支援を行う。

**答** 県議会で地元の意思を確認するとした新潟県知事の意向・判断を尊重したい。





古田島 丞

## 道路の草刈り、除雪について問う



**問** 国・県・市道の草刈りについて、各道路管理者において定期的に行っているが、作業を同時期に行うことはできないか。

**答** 道路除草は各管理者が優先度を決めて実施している。道路ごとに優先度が違い、業者間の工程調整も煩雑になることから、現実的には難しい。緊急、危険箇所等で具体的な場所、時期が特定されるのであれば、道路管理者間での調整も検討できる。

**問** 除雪作業に従事する人員が不足している状況であるが、今冬の除雪体制について、人員は十分確保できているか。

**答** 十分確保できている。

**問** 空き家の増加、高齢化により自宅前の歩道や路肩の除雪、門払いができない場所が増えてきている。

今後さらに状況が悪くなることが予想されるが、対応策等を検討しているか。

**答** 住宅出入口の雪の処理は、各家庭にお願いしているが、空き家前の路肩は対応が困難であるため、空き家を起因として道路除雪に影響がある場合は、空き家の管理責任は原則として所有者にあるため、地域住民の生活へ支障を来さないよう所有者に対し適正管理の徹底を求めている。自力で処理できない要援護世帯の門払いは、軽度生活支援事業の除雪援助により支援を行っている。業者の確保は大きな課題であるが、除雪作業者の負担軽減を図るため、門払いで除雪機を使用した場合の支援制度を昨年度新設した。これからも冬季間の高齢者住宅等の安定的で持続可能な除雪体制の維持に努めていく。



渡辺 一美

## 高市内閣「責任ある積極財政」について問う



これまでの政府は、「国債は借金であるから、将来世代に負担を残さない」と緊縮財政を続けてきたが、その結果が失われた30年であった。

本来、需要不足の時に政府は財政出動や減税をして需要喚起・消費喚起をするのがマクロ経済の基本的政策であるから、「将来世代に責任を持つためにも適切な規模での積極的な財政出動によって、国全体の供給能力の毀損に歯止めをかける必要がある」という責任ある積極財政を展開する高市政権について、市長の見解を問う。

**問** 市長は高市内閣の「責任ある積極財政」についてどのように理解しているか。

**答** 一地方自治体の長である私が、高市内閣を評価できる立場にはない。国が掲げる「責任ある積極財政」を進めることで、地域経済が安

定し、地方の成長と暮らしの安心につながることに期待している。

**問** 経済発展による所得向上を図り、市民一人ひとりの賃上げを確実にするために、何をすべきと考えるか。

**答** さらになる公共調達の適正化や業界団体を通じた価格転嫁の促進、企業の強みや魅力といった付加価値向上への支援などで、地域経済の好循環を後押しすることと考える。

**問** 責任ある積極財政を掲げる高市政権に市長会などを通じて、何を要望していこうと考えているか。

**答** 10月の北信越市長会総会において、公共施設等適正管理推進事業債の期間延長、地方交付税の確保、過疎対策事業債の所要額確保について要望した。引き続き必要な財政措置を国に求めていく。

## 一般質問 (通告順)



大桃 俊彦

## 今こそデータセンター (DC)誘致を魚沼市へ



「DC誘致を魚沼市へ」ということを以前から要望してきた。AIの普及に対し、DCが追い付いていないのが現状である。DCは太平洋側に集中しており、災害時対応として地方に誘致する考えで、東北電力・NTT東日本・日本政策投資銀行の3社が新潟・東北地方にDCを誘致・推進するため業務協力協定を締結した。冷涼な気候等が立地に適していることなどの理由で、計画の段階から連携してサポートする考えである。魚沼市は、立地条件は十分満たしていることや多額の固定資産税が長期に得られることから、このチャンスを見逃さず誘致・要望に力を入れていくべきである。

報発信や、情報収集などをもとに誘致活動に努めているが、今のところ目に見えた進展はない。

**問** 東北電力等3社との協定をどのように受け止めたか。

**答** 3社により本市の誘致活動に弾みがつけられるよう期待する。

**問** 今こそ誘致に対し、最適地であるとアピールし、トップセールスとして活動し3社に掛け合うことが必要と考えるが、市長の見解を問う。

**答** 業務協力協定企業である東北電力を通じて情報共有や電力供給に関わる試算の協力をお願いしている。今後、誘致活動の中で関係機関や協定団体等と情報共有し、DCを含む企業誘致活動に努める。トップセールスは、現段階では、事務レベルでの調整や誘致活動の進捗を踏まえたうえで検討する。

**問** 今までの答弁では、海底ケーブルの陸揚げ局の設置箇所が定まっていらないという理由で、様子を見守るとのことだったが、その後の進捗状況等で動きはあったのか。

**答** 国を通じた候補地としての情



本田 篤

## PFAS(有機フッ素化合物)の環境&健康対策は



**問** 市の見解を問う。暫定目標値から水質基準への引上げはどうか。

**答** 1万種類以上の物質があるPFASの中で、PFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸)、PFOA(ペルフルオロオクタンスルホン酸)は、幅広い用途で使用されている。人体に蓄積することで、健康への影響が懸念される重要な課題である。水道水は、昨年度から水質検査を実施し、PFOS及びPFOAが検出していないことを確認している。令和8年度から水道法の改正で、PFOS及びPFOAが水質基準に追加される。

**問** 水道水以外ではどうか。

**答** PFOS及びPFOAは、令和6年度と令和7年度に新潟県が河川水及び地下水の調査を実施した。魚野川・佐梨川・破間川・市内の地下水で、国が設定した指針値を上回る数値を検出した。現時点で本市独自の調査等は実施しない。

**問** 市は、リスクコミュニケーションをどのように図っていくか。

**答** PFOS、PFOAに起因する

健康被害は低いと考え、市民説明会等のリスクコミュニケーションの実施は考えていない。

自転車への交通反則通告制度について

**問** 4月までに外国人を含め周知徹底を望むがどうか。

**答** 令和8年4月1日から施行予定である。市報、市ホームページやSNS等で対象となる主な違反行為、反則金の額等を掲載する。チラシやリーフレット等を市の窓口や各施設に配置し、市民への浸透を図っていく。

ごみ処理場について

**問** 過去最大の公共事業となる。財政上の問題はないのか。

**答** 循環型社会形成推進交付金(対象経費1/3補助)、過疎対策事業債を最大限活用するため、国・県と協議中である。不足分は、一般廃棄物処理事業債も視野に入れる。令和12年度が歳出のピークで、基金の活用も想定し持続可能な財政運営に努める。





大平 恭児

## 新幹線騒音問題の早期解決を



堀之内地区長屋の住民は、上越新幹線開業から今日まで43年間、新幹線騒音に悩まされ続けている。

**問** その解決に向けてどのように取り組んできたのか。また、市はどういう認識を持っているのか。

**答** JR東日本に解決に向け、申入れを行っており、騒音対策に努めている旨の回答を得ている。しかし、令和5年度のダイヤ改正に伴うスピードアップがあり、改善が見られていない。令和7年1月に長屋地区役員との意見交換会を行った際に、問題が解決しないことに憤りを感じており、市としても未だに解決しない現状に対し遺憾に思う。

**問** 住民への支援策はないのか。

**答** 原因者のJR東日本が解決すべきであり、市として支援制度を設けることは考えていない。

**問** 柏崎刈羽原発、県民意識調査について

**問** 原発事故が起こった際には、

当市が大きな影響を与える重要な問題である。長岡市も行っている独自調査と分析を、魚沼市でも行う考えはないか。

**答** 県民意識調査の全体の集約結果は確認している。本市独自の回答データは持ち合わせていない。

**問** 県民アンケートの結果をどのように捉えているのか。

**答** 柏崎刈羽原発に対する県民の意識を把握するための調査と捉える。

学校給食について

**問** 政府は、来年度から小学校給食費無償化を示しているが、中学校給食費は示されていない。市単独でも中学校給食費助成を行う考えはないか。

**答** 物価高騰で、保護者の経済的な負担を軽減するため、市の補助を今後も継続していくが、全額市の負担は、有利な財源等があれば検討していく。



磯部 竜太郎

## 事業承継で地域企業を次世代に残すための支援策について



市民から惜しまれつつも廃業を選択する企業が市内に存在する状況を踏まえ、以下について質問する。

**問** 当市にある事業者の後継者不在率と、支援が特に必要と認識している事業者数を問う。

**答** 昨年度の商工会連絡協議会の調査によると、後継者が決まっていない事業者が8・3%、自分の代で廃業を予定している事業者が44・8%、第三者に譲りたい事業者が7・0%であった。後継者不在率は概ね5割程度で、特に支援を必要とするのは58事業者と認識している。

**問** 当市における事業承継の支援体制・人員・機能、今後の課題認識を問う。

**答** 新潟県事業承継・引継ぎ支援センターのエリアコーディネーターと連携し、個別相談会、セミナーを行っている。また、事業承継促進事

業補助金として、事業承継に係る費用を支援する制度を設けているが、現状はいずれも十分に活用が進んでいない。現状を踏まえ、潜在的な対象企業の掘り起こしが必要であると認識している。市独自で専門的人材を配置するのは難しいので、新潟県事業承継・引継ぎ支援センター等、関係機関との連携を密にしたい。

**問** 長岡市では後継者不足に悩む経営者の声を拾う相談窓口として地域おこし協力隊を募集している。本市でも民間企業や協力隊等の専門人材の知見を活用する取組を行わないか。

**答** 引き続き、新潟県事業承継・引継ぎ支援センターのエリアコーディネーターと連携を深めていく。新しく事業承継の専門人材を受け入れる予定はないが、小出商店街に配置した地域おこし協力隊員や、各地域にいる集落支援員からの情報収集にも努める。

# Voice No.24

## 聞かせて！あなたの声

# 魚沼国際雪合戦 実行委員会 × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざくばらんに語り合うコーナーです。

第24回目は、魚沼国際雪合戦実行委員会の皆さんからお話を伺いました。

### 歴史

魚沼国際雪合戦は、1989年（平成元年）に始まった、魚沼の冬を代表するイベントです。

スポーツ雪合戦の起源とされる「昭和新山国際雪合戦」と並び、日本で最も歴史ある雪合戦大会の一つです。

### 組織体制

魚沼国際雪合戦の主催は、「小出雪まつり実行委員会」です。実行委員長の魚沼市商工会長を中心に、魚沼市・スノーパーク小出・魚沼市商工会青年部・魚沼青年会議所・魚沼市観光協会・旧小出町の各町内会など、小出地域に関わる団体を中心に構成されています。

雪合戦は魚沼市商工会青年部と魚沼市が中心となって運営します。雪合戦前夜祭は魚沼青年会議所が担当で、小出スキーカーニバルはスノーパーク小出が担当します。

### 取材しての感想

国際雪合戦は、小出町のまちおこし事業の一環として小出ボランティアセンターで始まり、NHKテレビで放映されました。その後、小出郷響きの森公園を会場に歴史を重ね、令和8年2月で36回目を迎えます。今では、国際大学や技能実習生の皆さんや九州・関西からの参加もあり、魚沼市の冬の代表的な事業として定着しています。この事業を持続発展させるには、準備・運営スタッフの確保が課題とされています。課題克服のためボランティアを募り、魚沼市の活性化につなげていきたいと感じました。

### エントリー状況

昨年は約150チームの定員が12月中に締め切られました。今年は約200チームが定員ですが、取材が行われた12月24日時点で、すでに定員の約9割に達しています。南は鹿児島からの申込もあり、全国各地からの参加が見込まれます。昨年は甲子園に出場した現役高校球児が出場し、大会は大いに盛り上がりしました。

また「国際」という名称にふさわしく、国際大学の学生や市内企業の技能実習生などの参加も年々増えています。

そして、雪合戦前夜祭は募集開始からわずか2日で100人の定員に達するほどの大人気イベントです。

### 課題

ここ近年はボランティアの確保に苦労しています。是非市民の皆様にもボランティアとして携わって頂けると嬉しいです。そして、商工会青年部も少子化に伴って人数の減少が見込まれるため、将来的には青年部を中心とした運営体制にも不安を抱えています。



### 魚沼市や議会への要望

現在、備品の更新が十分に追いついていません。2019年に「小出国際雪合戦」から、現在の名称に変更となりましたが、会場の備品や商店街に飾られている旗などには、旧名称が入ったものがまだ使用されており、更新が追いついていないのが現状です。公式キャラクター「雪だるマン」の着ぐるみも経年劣化が著しく、ボランティアが着用することも負担となっていますが、一体何十万円もする着ぐるみを気軽に買い替える予算の確保は難しいです。

雪合戦に限らず、魚沼市への誘客の目玉となるイベントについて、備品の更新や整備に対する市からの支援を希望します。こうした支援があれば、より魅力的なイベントの開催につながり、多くのお客様を市に呼び込むことができると考えます。

これからも全国の皆様から長きに亘って愛され続けるイベントとして継続させていく為にも、ご理解とご協力をお願いしたいです。





# 令和7年度 中学生議会を開催しました 中学生の視点で 市政に提言

11月20日に本庁舎議場にて、中学生議会が開催されました。市内各中学校3年生の代表12人が議員となり、10人が一般質問に登壇しました。中学生議会は、中学生が地方自治について学習する中で、市政や市議会をより身近に感じてもらい、政治への関心を高めることを目的に開催しており、今年で9回目となります。生徒の皆さんは、7月に行った事前授業を通じて夏休みから準備を始め、議会に臨みました。当日は、大人顔負けの視点で、魚沼市をより良くするための提言や再質問を市長や教育長に対して堂々と述べました。この体験が、郷土愛の醸成につながることを期待します。

## 問

只見線の各駅には改札機がなく、無賃乗車をする人を見かけたことがある。私たち中学生が「魚沼市只見線にみんなで手をふろう条例」に則り活動しても乗客が快く思わなかったり、地域住民が愛着を持つことができない。ICカードを利用できる改札機を導入し、只見線の活性化に努めないか。

## 答

Suicaなどの鉄道系ICカードが多くの駅で使えるようになることは、鉄道を利用する人たちの利便性を向上させるうえでとても重要である。特に、只見線は、全国に誇れる本市の観光資源でもあり、多くの人たちから本市を訪れ利用いただきたいと思っており、市内の駅でICカードが使えれば、只見線の活性化とともに観光誘客の促進を図るうえで大きなメリットになる。残念ながら市内では、JRの全ての駅でIC改札への対応ができない。市内の各駅でSuica対応改札が設置されるよう、引き続きJRに対し要望活動を続ける。

只見線の活性化について



魚沼北中学校  
佐藤 結翔 議員  
ゆいと

## 問

魚沼市の人口は、今後減少が続くと考えられ、小中学校の統合が進み廃校となる校舎の活用が課題となる。反面、大きな空間や教室等、広い校庭や駐車場、また、耐震構造の建物として価値あるものである。

## 答

① 廃校となった校舎の活用、今後廃校になるであろう校舎の活用をどう考えているか。  
② 廃校の利活用に関し、現在行っている計画、今後の考えはどうか。  
③ 廃校となった施設は、他の先進事例を参考に、市民や民間事業者を交え新たな利活用策を検討する。  
④ 新たな利活用策がない中で、建物の存続は、将来に負担を先送りすると判断し、旧入広瀬中学校は令和8年度に解体する方針とした。旧原小学校は、民間事業者の撤退で旧校舎棟は埋蔵文化財の保管場所、旧体育館棟は野球の屋内トレーニング施設として今後活用する予定である。

廃校の活用について



広神中学校  
遠藤 汰晟 議員  
たいせい

## 問

将来の進学で、市内に大学や専門学校はないため、市外に通学するかアパートを借りるしかない。家賃や生活費も上がっていて、家計に大きな負担をかけてしまう。奨学金もあるが、働いて返すことができるのか、とても不安である。

## 答

① 一定の条件を満たした場合に返還が免除される「ふるさと帰育英奨学金」の周知に努め、一人でも多くの学生を支援する。  
② 中学1年生を対象に『まちの仕事発見塾』を開催し、市内の企業や仕事の魅力を学ぶ機会を提供している。企業が自らPR活動を行う際の支援として、補助金制度を設けている。中学校では、職場体験など、若い世代が魚沼市の企業に関心をもち、「このまちで働きたい」「暮らしたい」と思える環境づくりを進めたい。

住み続けられる魚沼市について



湯之谷中学校  
樋口 大翔 議員  
ひろと

## 地域クラブ化に伴うメリツトとデメリットについて



小出中学校  
岡部 茉希 議員

### 問

クラブ化で他校とのかわりの増加、競技レベルの向上、先生方も仕事に専念できるなどメリットがある。しかし、送迎が忙しい、クラブのレベルが上がるなどの理由で、クラブに入らない人やあきらめる人、チャレンジしない人も多くいる。

①前述した理由でクラブに入ることができず、競技人口が減少している事実を確認しているか。この事実をどう考えるか。

②平日3日、休日1日をクラブ活動に充てられる指導者は少ない。指導経験のある指導者でないチームを持つことは厳しい。指導者確保の困難さをどう考えるか。

### 答

①現1年生の地域クラブへの加入率が低いことは把握している。今後は、学校を離れ、多種多様な「やりたいこと」に挑戦してもらいたい。地域クラブ活動のPRにも努める。

②地域のスポーツ団体や文化団体と協力し、専門的な指導ができる人材を発掘し、活用する体制を整えていく。

## 若者が集まり、住みたいまちづくりに向けた総合体育施設の建設について



堀之内中学校  
高橋 風碧 議員

### 問

遊戯場やプールを併設し、冬期間や雨天時に利用できる室内運動場を備えた総合体育施設の建設はどうか。さらに、商業施設や宿泊施設を隣接させ、学校や医療機関を結ぶアクセスを整備する。高速道路や新幹線の利便性を生かし、主要大会を誘致できるような施設の建設を望む。

①行政として、どのような都市計画を考えているか。

②総合体育施設の建設の課題や見通しはどうか。

### 答

①現在、都市機能を中心拠点に集め、暮らしやすく、にぎわいのあるまちづくりを進めている。既存施設等を有効に生かすことが重要である。魚沼らしい魅力ある暮らしの場を整えていきたい。

②当面、今ある施設を最大限に有効利用することを基本に進めている。より広域な視点で近隣の市町の施設と一緒に利用する方法で協議、検討を進めている。

## クマなどの鳥獣被害対策について



魚沼北中学校  
兜森 桃里 議員

### 問

今年のクマ被害は、全国的な問題である。安全な学校生活、家庭生活を守るため被害を未然に防ぐ対策を強化してほしい。私たちがクマに遭遇した際の対処法を教えてください。野生動物からの被害を防ぐ対策は、どのようにしているか。

### 答

放置しているクルミ、栗、柿の木を伐採し、クマが人里に出没しにくい環境の整備や、柿の実を放置せず、収穫することが大切である。防災無線・防災ラジオ・回覧文書で周知をし、今年から市の公式LINEでクマの出没を知らせている。朝夕のパトロール実施、出没の多い場所になの設置等を行い、クマによる事故の防止と安全・安心なまちづくりを進めていく。

## 空き家の活用について



広神中学校  
佐野 直幸 議員

### 問

魚沼市では、人口減少に伴い空き家が増えている。特に、昔からの住宅街や山間部にある空き家は、そのまま放置されている。景観の悪化や防犯面での不安、地域の活気が失われるのではないかと心配している。県内の自治体では、空き家の活用事例が紹介されている。湯沢町は、旅館を改装し、企業を誘致している。佐渡市は、店舗等に改装し、観光資源として活用している。魚沼市でも、空き家を活用した取組をもっと進めるべきではないか。

### 答

空き家を商業施設等にリノベーションする事例は、今のところない。空き家をリノベーションし、地域資源として活用することは、大変重要な空き家対策である。市では、空き家や空き店舗を活用し新たに起業する事業者に対し、支援制度を設けている。こうした制度を利用し事業を展開する事業者が増えるよう、関係団体等と連携・協力し空き家の解消と有効活用を図っていく。



## 近年の気候変動による米の品質低下対策について



湯之谷中学校  
瀨下 高志 議員  
たかし

### 問

国内最高品質の「魚沼産コシヒカリ」を生産する魚沼市にとって、米の品質低下は大打撃となる。全国各地で、気候変動による農業被害が発生し、対策の必要性が叫ばれている。今、魚沼市が「魚沼の米」を守るために立ち上がるべきではないか。

①気候変動に、どう立ち向かうのか。  
②米の品質低下、供給や流通の滞りに対し、どのように歯止めをかけるのか。

### 答

①渇水時の地下水利用で、農業用水を確保するため、令和8年度に簡易井戸の整備実現に向け、土地改良区と調整を進めている。冬場の雪を渇水期の水資源として活用する方策も、市役所内で研究を進めている。

②品質低下は、関係機関の技術指導のもと、早生、晩生品種の組合せで収穫時期の分散を図り、適期収穫で品質向上につなげる生産者の取組を支援する。供給や流通の滞りは、魚沼市農業再生協議会において米の需要量を調査したうえで、今後、生産者に対して米の生産目安数量を示すこととしている。

## 高齢者支援について



小出中学校  
星 紗梨 議員  
さな

### 問

私は、自然豊かで住みやすい魚沼市が好きだが、スーパーが減ってきている。街の住み心地ランキング2025（新潟版）で第一位である新潟市中央区の住みやすい理由に、徒歩圏内でスーパーに行けるとあった。

①市内で買い物物がしにくくなった高齢者への支援は考えているか。  
②今後もスーパーが減るとしたらどのような対策を考えるか。

### 答

①車両の燃料経費の一部を補助し、市街地から離れた地区へ移動販売車に出向いてもらう取組を支援している。運転免許がない人の交通手段は、乗合タクシーで市街地までの乗入便を運行している。小出地域周辺では「のるーと」の運行を開始し、移動手段を持たない人に対する不便さの解消に努めている。また、タクシー券の配付や、週2回の昼食配達サービスを実施している。

②インターネットによる通信販売の利用促進が挙げられ、スマートフォン等を使えるようにするための支援が必要である。

## 魚沼の自然を活かしたまちづくりに向けた工夫について



堀之内中学校  
山田 結唯 議員  
ゆい

### 問

ふるさと納税額や観光客数の増加、流出人口の抑制のため、施設やイベントが有効に機能することで、交流人口が増え、活気あるまちづくりになると思う。

①施設の利用や合宿誘致など、利用促進の工夫は、どのようなことを考えているか。  
②様々なイベントや祭りの集客の工夫は、どのようなことを考えているか。

### 答

①「ここいら」では、地域が主体となり、近隣の商店街と連携した交流を生み出す催しを実施している。整備中の「にぎわい創造拠点」は、若者の中心市街地への回遊を目指した取組との連携、空き店舗を活用した出店支援を進め、人が集まりにぎわいが生み出されることを期待する。

②本市にはコシヒカリをはじめ全国に誇れる「食」の魅力が備わっており、「食」に結び付けたキャンペーンやイベントで民間事業者の方々から集客面での工夫に取り組んでもらっている。

## 樋口教育長からの講評

民主政治は、社会科で学習していると思います。議会制民主主義の現場がまさにこの議場であります。対立と合意、公立と公正、個人の尊重と法の支配などに着目し、課題を追及したり、解決をしたりする学習活動がこの中学生議会であると思います。質問に上がっていた内容は、魚沼市議会でも取り上げられる問題であり、ふるさとの課題をよく調べていて感心しました。同時に、魚沼市を大切に思う心もたくさん伝わってきました。学校や社会の課題は、こうすれば解決できるという絶対的な正解があるわけではなく、そのときの状況に応じ合意できた最適解を、様々な考え方を持つ多様な人と協働的に粘り強く取り組むことが必要だと思っています。だからこそ、問い続け、話し合うという力がますます大事になると思っています。皆さんが進む道において探求し続ける姿勢を持ち、様々な実体験を通し世界を広げていくと欲しいと願っています。皆さんのこれからの活躍に期待します。

緊張感が漂う議場で、堂々と議事進行をしてくださいました。議長役を務めたのはこのお二人です。

堀之内中学校

関 優心 議長

堀之内中学校

松井 結菜 議長



参加いただいた皆さん、大変お疲れ様でした！

## 総務委員会報告



10月23日・11月11日・12月10日に委員会を開催した。

### 1 審査事件

事件名は、3ページの第4回定例会等をご覧ください。

### 議案第95号

**問** 他の自治体ではいつ頃から定められていたのか。

**答** 緊急消防援助隊の関係は、国からのガイドラインが示され、ほぼ一斉になる。救急救命士は、他の自治体の引き上げが確認され、今回引き上げた。

### 議案第96号

**問** たき火と野焼きの違いは何か。

**答** 消防では、燃やす行為をした際に、火災と紛らわしい煙が出るとか、火災と間違えるような火が出る際の届出を規定している。

### 議案第101号

議会からも提言書を提出している。基本構想に基づき、市民に分かりやすく説明をしながら実施計画を進めてほしい。

### 議案第102号・107号

※原案可決すべきものと決定。

### 2 調査事件

① 定員管理計画の策定について  
② 財政計画の策定について  
③ 行政視察について

④ 第三次魚沼市総合計画（案）について

⑤ 行政視察の総括について  
⑥ 魚沼市特定居住促進計画（素案）について  
⑦ 市民の声を聞く会の意見・要望事項の取り扱いについて  
⑧ これまでに実施した合併特例債充当事業について  
⑨ 市有地公売2回目入札結果について  
⑩ 令和7年度魚沼市総合防災訓練の結果報告について  
⑪ 魚沼市自然災害に伴う破棄物処理費等補助金概要について  
⑫ 救急車出動中の走行不能（車輪脱落事故）について  
⑬ 旧慣使用について  
⑭ クマの出没状況について  
⑮ 魚沼市カスターハラスメント対応マニュアルについて  
⑯ 魚沼市過疎地域持続的発展計画の変更について  
⑰ 魚沼市公共施設再編整備計画（第3期）の策定について  
⑱ 魚沼市DX推進方針の改正について  
⑲ 第3期魚沼地域定住自立圏共生ビジョンの策定について  
⑳ 空き家実態調査の結果について  
㉑ 下島地内建物収去土地明渡し請求訴訟の経過について  
㉒ 突風被害に係る廃棄物処理費等補助金の申請状況について  
①から㉒について執行部から説明を受け、質疑を行った。

## 福祉文教委員会報告



10月7日・22日・11月11日・21日・12月11日に委員会を開催した。

### 1 審査事件

事件名は、3ページの第4回定例会等をご覧ください。

### 請願第4号

**問** 新潟県と阿賀野川流域の自治体以外でも同様の請願採択があるのか。

**答** 現在、12月議会で同様の動きはあるが、採択されたという情報はまだない。

### 陳情第1号

**問** 公立・私立の定員はどうなっているか。

**答** 県立高校の定員は、毎年の中学3年生の人数や倍率を基に県教育委員会が調整し削減している。私立の定員は、民間の経営に県は関与できない。

### 議案第4号、議案第97号・111号

※原案可決すべきものと決定。

### 2 調査事件

① 現地調査について（魚沼市特別養護老人ホーム鮎の里、特別養護老人ホームうかじ園）  
② 魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会からの答申について  
③ 行政視察について  
④ 第三次魚沼市総合計画（案）について  
⑤ 行政視察の総括について  
⑥ 民生児童・児童委員の改選について

⑦ 魚沼市第7期障がい者計画・第8期障がい福祉計画・第4期障がい児計画について  
⑧ 魚沼市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画について  
⑨ 生涯学習センター正面階段の改修について  
⑩ 旧入広瀬中学校解体工事の今後のスケジュールについて  
⑪ 魚沼市こども計画の素案について  
⑫ 第3次魚沼市環境基本計画の素案について  
⑬ 第3次魚沼市一般廃棄物処理基本計画の素案について  
⑭ 第2次魚沼市地域公共交通計画の素案について  
⑮ 市民の声を聞く会での意見・要望事項の取扱いについて  
⑯ 第2次魚沼市人権教育・啓発推進計画策定について  
⑰ 子ども・子育て支援金の負担について  
⑱ 後期高齢者医療保険料率の改定について  
⑲ 魚沼市健康づくり計画策定（改訂）について  
⑳ 魚沼市地域医療計画策定について  
㉑ 令和8年度以降のけん診会場の変更について  
㉒ 権利を放棄した医師等修学資金の不納欠損処分及び基金への補填について  
㉓ 第3次魚沼市生涯学習推進計画について



## 産業建設委員会報告



- ②4 第2次魚沼市子ども読書活動推進計画について
- ②5 市税の滞納処分及び滞納処分の執行の停止について
- ②6 ナンバープレートについて
- ①から②6について執行部から説明を受け、質疑を行った。

10月14日・11月18日・12月12日に委員会を開催した。

## 1 審査事件

事件名は、3ページの第4回定例会等をご覧ください。

## 請願第3号

問 市内4つのスキー場における昨年度の免税軽油の免税額はどのくらいか。

答 全てのスキー場を調べていないが、奥只見丸山スキー場は5万700ℓ、薬師スキー場は平日営業していないことと期間も少しずれる影響もあり8,000ℓで、これに1ℓ当たりの免税額32円10銭を乗じた額である。

議案第99号、119号

※原案可決すべきものと決定。

## 2 調査事件

① 水道料金・下水道使用料の見直しの検討について

問 今回、水道料金の値上げのみであるが、下水道料金の値上げという考えはないのか。

答 水道料金・下水道使用料は、4年ごとに見直しを行っている。下水道使用料については、4年後まで現行使用料で運営できると判断している。水道料金は、今回値上げせず4年後の値上げとなると、値上げ幅が大きくなってしまふ。改定率を最小限に抑えた方針案とした。

問 4年に1回の改定で、単年度収支は、令和10年から赤字になるが、内部留保を見ると今年度は約3億2,000万円である。資本的収支の中で内部留保しているが、基準はあるのか。

答 内部留保は、突発的な対応として約3億円と言われている。基準は定められていない。

② 魚沼市有スキー場に対する令和10年度以降の対応について

③ 行政視察の総括について

④ 雪国観光会館解体に伴う債務負担行為の設定について

⑤ 水道料金・下水道使用料の見直しの答申について

⑥ 新法人設立準備会の報告について（スキー場）

⑦ 水の郷工業団地への立地に関する基本協定の締結について

⑧ 市民の声を聞く会での意見・要望事項の取扱いについて

⑨ 現地調査について（にぎわい創造拠点）

①から⑨について執行部から説明を受け、質疑を行った。

## 先進地に学ぶ！行政視察報告

市の課題や先進地事例を調査するため、常任委員会で行政視察を行いました。

## 総務委員会〔11月4日～5日〕



## ①東京都渋谷区

## ●「リフレッシュ氷川」スマホサロンについて

高齢者の「わからない」に寄り添う伴走型支援は、地域社会の信頼形成にも寄与している。都市部である渋谷区でもデジタル格差は存在し、地方自治体と共通の課題を抱えている。防災や生活支援とデジタル学習を組み合わせる手法は、魚沼市でも応用可能である。行政主導ではなく、市民参加型・協働型で運営されている点が特徴的であった。



## ②埼玉県戸田市

## ●ChatGPTに関する調査研究事業について

行政DXに加え、市民サービス向上に直結するAI活用を重視している。研修・ガイドライン整備・試行実験の3段階導入は実務的で参考になる。PDCAサイクルを明確にし、旧サービスから新サービスへの移行がスムーズである。AI活用が職員の負担軽減と市民利便性向上の両立に寄与している。研究と運用を並行して実施する柔軟性が高い。



## ③群馬県川場村

## ●川場村の地域づくり及び移住定住について

魚沼市に当てはめると、魚沼も農業＋観光＋森林資源の三要素が揃っており、川場村のモデルは非常に参考になる。特に、民間指定管理＋地方債＋一般財源という財源構成と、指定管理者が運営にあたるガバナンス体制は、魚沼市側でも慎重に検討すべき「仕組み」である。都市部（世田谷区）との交流モデルは、「魚沼市×都市部企業・住民」との連携のヒントになる。



## 福祉文教委員会〔10月29日～30日〕

### ①石川県かほく市 ●PFI 事業による総合体育館の整備について

「する」「みる」「ささえる」が明確となった館内の構造は背景・趣旨から導き出した明確なコンセプトが体现されていた。プレイヤーが充実した活動ができる館内設備、観客が見やすいように意匠を凝らした体育館のデザイン、繊維のまちであるかほく市らしさを織り込んだ紡ぐデザインと、細部までのこだわりが徹底されていた。



### ②富山県富山市

#### ●富山型デイサービスについて

富山市は富山型福祉サービス推進特区を認定している。民間の求めるスピード感ではなかったかもしれないが、条例や規則を見直す等の後方支援を的確に行っていると感じた。

行政が旗を振って立ち上げたものではなく、民間の熱量に行政が応えた事例であった。



### ③富山県富山市

#### ●富山型デイサービス施設 NPO法人 しおんの家

中庭で楽しそうに歌を歌っていた利用者の姿が富山型デイサービスの魅力そのものであったと感じた。高齢者だけでなく、乳幼児、障がい者（児）を一体として受け入れ、共生を実現することにより、高齢者が目を輝かせて、笑顔で過ごす姿は福祉の理想である。一方で、事業者や職員の方の処遇を改善できる制度設計の必要性を感じた。



### ④富山県富山市

#### ●富山型デイサービス施設 NPO法人 デイサービス このゆびとーまれ

介護を受ける高齢者、発達障がいを持つ子ども、地域のボランティアと一緒におやつを作ったり、歌を歌ったりする姿が見られた。支援する・されるという関係ではなく、「共に生きる関係」が自然に生まれていた。少子高齢化・核家族化が進む現代社会において、こうして「人の温もりを感じられる空間」は地域の再生にもつながると感じた。



## 産業建設委員会〔11月12日～13日〕

### ①山梨県甲州市

#### ●「ワインツーリズムやまなし」ブランディングの取組について

民間主導で生産者・市・大学と連携することで、参加者への土地・風土・文化など五感を駆使して理解を求めている。旧宿場町でもあり、接客等は慣れており、トラブルは少ない。参加者自らプランを立て行動するのも特徴だ。地域の活性化には、民間主導で、行政はサポート役に回るのが持続的な事業につながる。



ぶどうの丘

### ②長野県小諸市

#### ●産学連携の取組について

温暖化による産地の移動によるワインのブランド化、産学との連携による農業振興、鹿肉ペットフードの商品化など成果を上げている。

また、今話題の野生動物への取組は10年前に遡るが、専門員の導入により全国に先駆けて野生鳥獣対策実施隊（ガバメントハンター）を危機管理課に置き、行政を中心に対策し、被害の軽減につとめ成果をあげている。



小諸義塾記念館



# 皆さんからの声を大切に

## 令和7年度 第2回 市民の声を聞く会

### ～議会報告会～

魚沼市議会では、開かれた議会を目指し市民の声を聞く会（議会報告会）を10月31日に堀之内地域の「原ふるさと会館」と守門地域の「守門高齢者センター白石荘」の2会場で開催しました。参加者の皆さまからいただいた貴重なご意見は、各担当委員会で協議し、今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。いただいたご意見の一部を紹介します。



#### 総務委員会

##### 魚沼インターの名称変更について

- 名称変更による経済効果はどのくらいか。
- 名称変更で変化はあったのか。

##### 中心部との格差について

- 山間部の人たちが不便となり中心部と格差がでるのはよくない。

##### 空き家対策について

- 冬期に向け空き家の安全性が心配だ。

#### 福祉文教委員会

##### 公共交通について

- 乗合タクシーの増便を含め改善を要望する。
- 基幹病院までの交通の便をなんとかしてほしい。



##### 旧原小学校等の活用について

- 今後の利用の方向性を聞かせてほしい。

#### 産業建設委員会

##### 獣対策について

- 獣対策に苦慮している。電気柵もありがたいが補助金の増額をお願いする。
- 河川からの出没時の対策をお願いする。

##### 渇水対策について

- 小規模農家にも目を向けてほしい。
- 事業の拡大をしてほしい。

##### 除雪について

- 管理されていない家屋周辺の除雪を省き必要箇所に集中してほしい。
- 歩道の除雪を早くしてほしい。

## 市民の声

### 魚沼の自然と子どもたち！

古新田 井口 史男さん

22年前、中越大地震の年に魚沼市にUターンし、平成22年から魚沼市自然環境保全調査活動の一員として、子どもたちとその親御さんと一緒に調査活動をしてきました。私はチョウ担当ですが、子どもたちが目を輝かせて昆虫を追う姿は、私に元気を与えてくれます。

残念ながら、最近の気候変動で暑すぎ、チョウのサナギの中身が空っぽになる現象もあります。そして生物の生活域も変化し、15年の間に中越付近が北限だったチョウが青森あたりまで北上したり、南方が原産地のチョウ（特定外来生物）が今年魚沼市で13頭捕獲され、すでに定着したりしています。

自然豊富な魚沼市で、「森林・緑や雑木林、草原や農地、湿原や池などの環境に適応した生物、その中で目を輝かせて走り回る子どもたちの姿」、この姿と魚沼の自然は、私たちが後世に残さなくてはならない本当に大切な宝物だと思います。

### 「火の国」から「雪の国」へ

小出島 坂本うららさん

この度、熊本県から魚沼へ移住してきました。

移住を決めた際、周囲からは様々な心配をされましたが、私にとつては自然に囲まれた暮らしは四季の変化がはつきりしていて季節ごとに違った表情を楽しむことができ、山菜採りや、雪・川遊びなど季節ごとに楽しめることが多く娘との楽しみが増えました。

昨年の4月に越えてきてからは予想どおりの地域の方々の温かさや、のびのび成長している子どもたちの姿に日々感動しています。

冬の厳しさはこれからが本番ですが、自然の恵みや人の温かさによって支えられた魚沼で暮らしていきたいです。

### 「市民の声」の 原稿を募集します

● 字数3000字程度

● 住所・氏名（匿名での掲載はできません）  
魚沼市議会事務局

送り先

〒946-8601  
魚沼市小出島910番地

## 議会TOPICS

### 魚沼市議会だよりの 表紙写真を公募します。

魚沼市議会では、議会だよりの表紙に「魚沼の宝」シリーズとして、魚沼市が将来に残していきたい景観や、魚沼の歴史・文化・魅力が伝わる写真を掲載しています。

このたび、「魚沼の宝」シリーズに使用する写真を市民の皆さまから公募いたします。

四季折々の美しい風景、日常の中でふと心に残る風景、地域に受け継がれてきた文化や営みなど、「これこそ魚沼の宝だ」と感じる一枚を、ぜひご応募ください。

皆さま一人ひとりの視点で切り取られた写真が、魚沼の魅力を次の世代へ伝える力になります。

たくさんのご応募をお待ちしております。



### 応募方法

魚沼市議会事務局

メールアドレス

[gikaizimu@city.uonuma.lg.jp](mailto:gikaizimu@city.uonuma.lg.jp)

写真を添付のうえ、  
メールにてお送りください。



## あとがき

「今年は大雪だ。」と言われていましたが、それも長続きせず今度は10年に1度レベルの「高温予報」。その予報どおり師走とは思えない日々が続く新年を迎えました。

昨年はコメ騒動、大阪万博、統計開始以降最も暑かった夏、そしてクマ騒動など多くの出来事がありました。クマについては本市においても10月に県内初の緊急銃猟が行われましたが、新潟県猟友会が導入した独自の技能認定制度の情報を、市町村と共有できたため、迅速な対応ができた一因でありました。クマといえば「パンダ」もクマ科。この議会だよりの発行日である1月25日が最後の観覧日。半世紀以上に渡り私たちに笑顔を届けてくれました。いろいろなしがらみを抜きにして、再び笑顔を届けてもらえることを期待します。

（古田島 丞）